

なぜ高知南中・高校なのか

◆具体的な統合のあり方の検討にあたっての視点◆

1 教育環境の充実

- ◎グローバル教育を始めとした新たな教育課題への対応が必要となっている。
→ 単なる入学定員の管理ではなく、教育活動の充実につながる統合が望ましい。
- 産業系専門高校は分けて考える必要がある。統合ではなく学科改編により定員管理する。
- 普通科高校は、中学生の学力や進路希望等に応じたバランスのとれた配置が重要であり、統合する学校を決定するにあたって、次のような配慮が必要である。
 - ・学び直しの機能をもった学校は同列で議論できない。
 - ・進学拠点校は、県内全域から生徒が集まっており、進学拠点校間の統合をした場合に生徒の進学先が確保できなくなる。
- 併設型中高一貫教育校は中部で必要である。

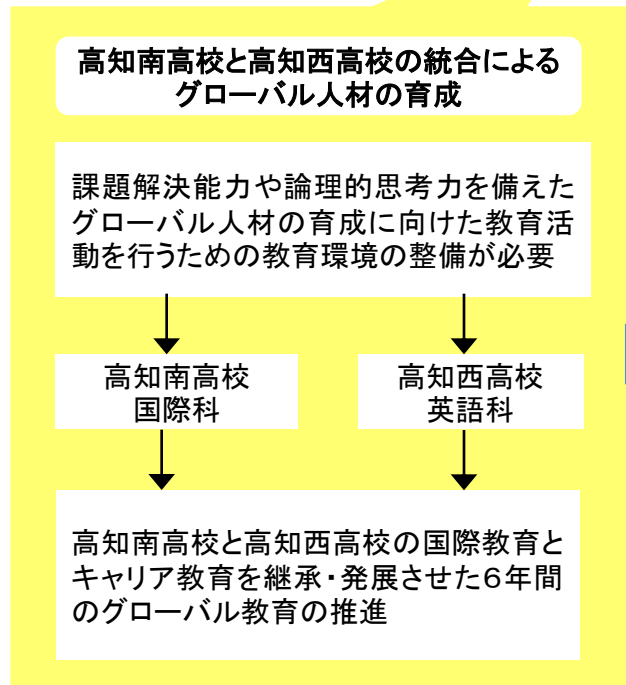
2 震災に強い教育環境の整備

高知市内の県立高校の津波浸水深
(発生頻度の高い地震想定)
(2m) 高知南中・高校、高知工業高校
(0.3m) 高知東高校、高知追手前高校

高知市内の県立高校の津波浸水深
(最大想定)
(3m) 高知南中・高校、高知工業高校
(2m) 高知東高校、高知追手前高校
(1m) 高知丸の内高校、高知小津高校

高知南中・高校は海に近いことから、高知市内の他の高校と比べて大きなリスクが想定される

- ・学校を含めた周辺地域の長期浸水
 - ・津波火災の恐れ
 - ・船舶や木材などによる漂流物被害の恐れ など
- 一時避難所として機能はするが、その後の早期の学校再開は困難



上記の二つの視点から総合的に考えると
高知南中・高校と西高校を統合することで、

- (1) グローバル人材の育成につながる
 - ① 高知南中・高校で取り組んできた国際理解教育と、高知西高校が取り組んできた英語教育を統合することで、その相乗効果によるグローバル人材の育成が可能となる。
 - ② グローバル人材を育成するには、中高一貫の6年間で取り組むことが望ましいことから、高知南中・高校で取り組んできた中高一貫の取組が生きる。
- (2) こうした成果を他の高校に広げていくことで、本県の高等学校教育全体の底上げにつながる。
- (3) 津波によるリスクを解消する震災に強い教育環境の整備につながる。

高知南中・高校と高知西高校を統合することで、これまでの両校の取組を継承・発展し、より充実した教育環境を整備することが可能なことから
高知南中・高校と高知西高校との統合案をお示しした。